

NPO法人 海浜の自然環境を守る会ニュース

第81号 2024年12月15日

〒663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

★★甲子園浜と大阪湾の生物の現状とその変化★★

大阪市立自然史博物館外来研究員 鍋島靖信氏

大阪市立自然史博物館友の会会長をしています。長くやっていると飽きたりするのですが、長くやったらやったでいろいろとわかってくることがあります。



大阪湾は魚の獲れる場所です。瀬戸内海でもトップクラスです。栄養分が多い。川から雨で流れてきて海に栄養が入ります。植物プランクトン、その死骸を動物プランクトンが食べる、それをカタクチイワシが食べる、口を開けてプランクトンを食べる、口を閉めるとお腹に入る、イワシがいっぱい沸くんですね。

この辺り甲子園浜は青潮が発生します、深いところに溜まったプランクトンの死骸が最初は酸素で分解される、夏場温度が高いとだんだん酸素がない状態で分解され硫化水素が発生する、そこに陸から沖へ風が吹くと表面の水が沖へ運ばれて、中の悪い水が上がって青潮になります。



ホンビノスガイ、カラスイガイ、ツメタガイ



マッコウクジラの龍涎香、クジラの下あごの歯

甲子園浜でいま貝殻が落ちていません。普通波が一番高い高潮線あたりのところに打ち上げられるのですが、一個もありません。貝を吃るのは、ナルトビエイ、クロダイ、カレイ、ヒトデ、アカニシ、ツメタガイ、タコなどで、一体どれが原因か。香櫞園浜は最近エイ釣りのメッカになっているらしいです。甲子園浜にはエイの窪みがいくつもあります。またクロダイは石の間をつついで貝を吃っています。この辺りが原因ではないかと思っています。

2024年11月2日

「甲子園浜の貝類相」—宮崎息吹氏—

京都大学農学部3回生。長く途絶えていた貝類研究会「いそこじき」を復活して会長をしています。



軟体動物、無脊椎動物の生態や、どう進化してきたかに興味があり、小学1年生くらいから甲子園浜に通って生き物の写真を撮ったり採取して記録をしてきました。

10年で108種の貝類を確認し、化石種の打ち上げも見られます。確認種の中には、レッドデータブック掲載の希少種も含まれます。個体数が減少していると考えられる種もありますが、一方新規に出現する種も確認されています。

甲子園浜は、多様な生物の生息する環境があり、「海に学ぶ」場として教育的価値があり、戦前からの貝類相記録のある学術的な価値のある貴重な海岸です。

2024年10月27日

～堤防壁看板が新しくなりました～

甲子園浜東側堤防下にあった看板が劣化して真白になっていました。

もともと「甲子園浜の野鳥」のタイトルで1996年3月に
当時の西宮ライオンズクラブが作成し西宮市に寄贈した
ものでした。



これをわたしたち法人で復元し、西宮市に寄贈することにしました。

基本的な主旨はそのままに、甲子園浜の現状にあった文章や写真にしました。
国設浜甲子園鳥獣保護区管理員尾崎氏、日本野鳥の会ひょうご杉田氏、環境省近畿地方環境事務所、西宮市花と緑の課からの助言をいただき、新しい看板を制作しました。

野鳥の写真は杉田氏提供です。

10月24日堤防に取り付けられました。

甲子園浜での野鳥観察にお役立て
ください。



活動報告

・9月28日(土)・10月6日(日)

兵庫生物学会植生調査参加

・10月24日(木)「甲子園浜の野鳥」看板設置

・10月27日(日)講演会「甲子園浜の貝類相」

宮崎息吹氏 12名参加

・11月2日(土)講演会

「甲子園浜と大阪湾の生物の現状とその変化」

鍋島靖信氏(大阪市立自然史博物館外来研究員)

18名参加

・11月3日(日)クリーンアップ in 甲子園浜

共催: 伊藤ハム株式会社 170名参加

西宮市100周年カウントダウン参加用「89」撮影



清掃協力: (株) ヤマサ環境エンジニアリング

可燃ごみ 110kg
不燃ごみ 10kg

BLUE SHIP 事務局より

WORLD CLEANUP DAY 2024 感謝状をいただきました



・11月9日(土)大阪湾生き物一斉調査結果発表会参加

・11月16日(土)・17日(日)

「大阪自然史フェスティバル」ワークショップ参加



約300名
対応

・11月22日(金)・27日(水)・28日(木)

南甲子園小学校5年生

環境学習参加



活動予定

・1/12(日)「こうしえんはまでたこをあげよう」

・2/2(日)「冬の鳥観察会」